

地域と共に歩む 大野小学校の学び

伝統を受け継ぐ〜大野ぎおんばやし〜



迫力のある音を出すには…

その美しい篠笛の音や迫力ある太鼓の音が心に残り、「自分たちも演奏してみたい」と思っていたようです。

お囃子の練習を通して、「はじめは難しいと思ったけれど、できるようになると楽しくなってきた。この伝統を受け継いで、今度は後輩に教えてあげたい」との思いを口にしていました。

5年生の一部の児童が学習発表会でも披露し、保護者の中からは、「懐かしい子どもの頃演奏したことあるわ」などの声も聞かれ、「大野ぎおんばやし」は、地域に根差した文化であることを実感しました。

最終目標である3月の「6年生を送る会」の発表に向けて、週2回の練習に一生懸命取り組みました。

本校では、江戸時代、京都から大野地区に伝わった、無形民俗文化財「大野ぎおんばやし」の継承に取り組んでいます。地域の宝でもあるお囃子を継いで行くために、今年度も保存会の中村さん・白尾さんのお二方をゲストティーチャーとして学校へお招きし、5年生児童48名に太鼓や笛の指導をしていただいております。

そのぎおんばやしは、6年生から5年生へと引き継がれ、「6年生を送る会」にて練習の成果と感謝の気持ちを込め、披露します。

5年生の子どもたちは、毎年耳にする



リモート指導で

地域の図書館と共に

今年度の4月から北斗市の図書館で「読書の通帳」の取り組みが始まりました。「読書の通帳」とは、銀行などで発行される通帳のように市立図書館（本館・分館）で借りた本の履歴（貸出日・本のタイトル・著者名など）が印字されるものです。

10月から12月には、市内の小中学生を対象に「秋の子ども読書マラソン」が行われました。北斗市の図書館か学校図書館で25冊以上借りて読む（うち少なくとも3冊は本館か分館で借りて「読書の通帳」に記帳してもらう）もので、本校では、分館に近い立地を生かし、1年生から4年生までがエントリーし、授業の中で図書館を訪問しました。

1年生は国語の「としゃかんにいこう」、2年生は生活科の「図書かんをつかおう」で、図書館のことを学びました。本を借りて通帳記帳を体験したりしました。3年生は国語の「『おすすめ図書カード』を作ろう」、4年生は国語「『読書発表会』をしよう」に向けての読書体験を増やす機会を設けました。

その結果、71名が25冊の目標を達成することができました。

1月には、3年生の斎藤桜月さんが市

内の小学生で初めて通帳1冊分（336冊）を読破し、永田教育長より表彰を受けました。

斎藤さんは、「受賞できてとてもうれしかったです。私は公民館の図書館（分館）に通っています。図書館は、本の種類が多く、読みたい本がそろっています。特に「ひみつシリーズ」は、いろいろなことがわかりやすく学べるので好きです」と話してくれました。



表彰を受ける斎藤さん

これからも、図書館を利用することを通してたくさんの本と出会い、知ることに楽しみや、想像の翼を羽ばたかせる喜びを味わえるよう、読書活動の推進に取り組んでいきたいと思っております。

（大野小学校 教諭 宮川 典子）